

(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部通信 第8号 2006年3月

事務所：〒840-0054 佐賀市水ヶ江4丁目2-2 TEL/FAX 0952-28-2077

e-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

URL <http://www2.odn.jp/unicef-saga/>

♫ ↑ ♫ 支部通信はホームページでもご覧いただけます

ユニセフのつどい

を開催しました

日頃から、さまざまな形でユニセフをご支援いただいているみなさまに感謝の気持ちを込めまして、2月4日(土)、アバンセにおいて「ユニセフのつどい」を開催しました。

青年海外協力隊員として、2002年より2004年までパキスタンにおいて学校改善プロジェクトに関わり、ユニセフパキスタン現地事務所との協働事業にも携わられたJICAデスク佐賀の小野康子さんに「パキスタンの子どもたちと初等教育」という演題で、パキスタンのコミュニティスクールの様子をお話いただきました。

また、ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」では、世界のさまざまな問題と自分との関係について「気づき」を共有しました。

(1) 「パキスタンの子どもたちと初等教育」 講師：小野康子さん (JICA デスク佐賀)

☆ 先ずは、ウルドゥ語での挨拶の紹介 (佐賀大学留学生の皆さんがお手本をみせてくださいました。)



☆ コミュニティスクールの様子を写真を見ながら話し合う。



☆ 参加者の声

- ◎ 男女でいろんなことが違い、女の子が学校に行けないということでびっくりしました。これからは、たくさん子どもたちに学校へ行って欲しいなあと思いました。
- ◎ 「豊かさ」の質というものを問い直すきっかけとなりました。パキスタンの子どもたちは物質的には恵まれていないようですが、真剣に学んでいる姿が印象的で精神的な豊かさを感じました。
- ◎ 教育を受けたい、受けさせたい人が多い途上国の支援を、少しでもできればと考えます。
- ◎ 写真を使った大変わかりやすいやり方で、学校の教育システムの提示をされていたと思います。

(2) ワークショップ 「世界がもし100人の村だったら」(ワークショップ版)

ファシリテーター：吉原真紀子(日本ユニセフ協会佐賀県支部運営委員)

☆ シミュレーション1 「大陸別に分かれてみよう」

アジアは人口が多くてぎゅうぎゅう！
輪の中に入れられない人もいました。

ヨーロッパ(ロシアを含む)は少なく、
オセアニアは一人もいない！

アフリカは意外と少ないね！



☆ シミュレーション2 「文字が読めないということ」

パキスタンの文字ウルドゥ語で書かれた「水」「毒」「薬」を見て、「薬はどれ？」と悩みました。



☆ 参加者の声

- ◎ 文字は全く分からなかったけど、勘で「薬」に当たった。よかった！
- ◎ 文字を読めないと不安だということを体験できた。間違っって「毒」を飲んでしまった。
- ◎ 世界の比率のアンバランスを、文章の中だけでなく、実際に体感し、分かりやすく理解させる取り組みと感じました。日本人の立場のみならずいろいろな立場に立って世界を見ることにより、さまざまなことに気づき、考え、生き方にまでも影響を与えられるのではないかと思います。
- ◎ 実際に自分たちで大陸別の人口数や文字の読み方などを体験できてよかったと思います。
- ◎ 色々な方と交流できてすごく楽しかった。

★ 講演「パキスタンの子どもたちと初等教育」の内容はいかがでしたか？

1. よかった 21 ⇒ 100% 2. よくなかった 0 3. どちらともいえない 0

★ ワークショップ「世界がもし 100 人の村だったら」の内容はいかがでしたか？

1. よかった 21 ⇒ 100% 2. よくなかった 0 3. どちらともいえない 0

★ ご意見ご要望などがありましたらご記入ください。

- 初めての参加でしたが来てよかったです。「世界がもし 100 人の村だったら」の本はたいへん心に残っています。
- ユニセフの行事を増やしてほしい。子どもでも参加できる会員クラブみたいなものを作ってほしい。
- 佐賀の小学校や中学校でワークショップをしてみてもいい？
- 日本が発展したのも終戦時に外国からの支援があったからだと思いますので、今は少しでも必要としているところには支援したい気持ちを持っていたいと思います。
- 「ユニセフのつどい」は世界の現状を知ることができる。世界の人々と出会える。こんな機会があればぜひまた参加したいと思いました。
- たくさん学ぶことがあってよかった。いい時間が過ごせたと思う。楽しかったです。これからは募金活動とか、やっていきたいと思った。
- レクチャーでは経済力のある国々が他国の人々を支援する義務についても述べるべきではないかと思いました。(佐賀大学留学生)
- どちらの話題も大変重要だと思います。そういった話題について考える機会が持ててよかったと思います。(佐賀大学留学生)



次回も「来てよかった」と、思っていただけのような内容の「つどい」を企画したいと、事務局運営委員一同元気をいただきました。ありがとうございました。

第 27 回「ユニセフ ハンド・イン・ハンド」 in 佐賀県

たくさんの温かいハンド・イン・ハンド
ありがとうございました!!

～手と手で結ぶ、子どもの未来～
募金総額は、1,168,901 円でした。

第27回ユニセフ ハンド・イン・ハンドは、佐賀地区の12月18日（日）と鹿島地区の12月23日（金：祝日）に実施されました。佐賀地区では背振の山が雪の帽子をかぶる寒い北風のなか、また鹿島地区では冷たい雨の夕暮れどき、「手と手で結ぶ、子どもの未来」をテーマに、ユニセフ支援のための街頭募金活動が行われました。総勢200名を越すボランティアの皆様、募金にご協力いただいた多くの皆様、会場をご提供くださった企業の皆様、そしていろんな形でご支援くださった報道関係の皆様、本当にありがとうございました。

一斉街頭募金のほかにも、職場で、学校で、ご家庭で、あるいはお友達同士でと、さまざまな形での「ハンド・イン・ハンド」協力をいただきました。ありがとうございました。心からお礼を申し上げます。

ハンド・イン・ハンド風景

佐賀玉屋デパート前会場（佐賀市）



ジャスコ佐賀大和店会場（佐賀市）



イオンスーパーセンター会場（東与賀町）



上峰サティ会場（上峰町）



スーパーモリナガ会場（鹿島市）



ピオ会場（鹿島市）



☆ 佐藤竣也さんは、ユニセフで学習をして募金活動に取り組んだことを、開成校区「少年の主張大会」で発表しました。

Let ' s unicef

佐賀市立鍋島中学校 1年 佐藤 竣也さん



総合学習のグループ分けのときに、僕は、はじめ「どうでもいいや」という気持ちで「募金グループ」に入りました。募金グループでの活動のある日、ユニセフの事務所へ話を聞きに行くことになりました。そこで聞いたのは、平和だと思っていた世界の現状は、そうではなかったということでした。その日から僕たちの活動は急速に進んでいきました。そしてついに、学校の文化発表会の場を借りて募金活動を行うことができました。すると、老若男女を問わず地域のたくさんの方の協力があり、学校に笑顔が広がりました。ユニセフは、僕にとっては特別な存在となりました。

世界の子どもたちは、今

[資料提供：日本ユニセフ協会]



<コートジボワール> 2006年2月21日 グナカンゾー発

政情不安が続くコートジボワールで、 再び徴募の危機に晒される元子どもの兵士たち

(写真：コートジボワール西部地域にあるグナカンゾー村で、ユニセフの子ども保護官フランシス・ザコと話す元子どもの兵士たち。)

3年間、内戦と民族紛争が続く西アフリカの国で、新たな戦いが勃発。そのため、すでに徴募から解放され、コミュニティに戻った何百人もの元子どもの兵士が、再び徴募される危険性が出てきました。

「和平協定が結ばれていないため、ほとんどの武装勢力は武装解除を拒んでいます。彼らは兵士も、子どもたちも手放したくないのです。」ユニセフの子ども保護アドバイザーであるマヌエル・フォンテーンは話します。

「武装勢力が子どもたちを取り込むのは、大抵の場合、将来的に政府の中で自分たちの立場を優位にするためです。」

コートジボワールにおいてのユニセフの最優先課題の一つは、子どもの兵士および武装勢力の中にいる子どもたちの武装解除・動員解除です。推定では5,000人以上の子どもたちが、武装勢力に取り込まれたと言われています。ユニセフは今までに、国連やほかのパートナーと協働で、1,900人以上の子どもたちの兵士たちをコミュニティに戻しました。

コートジボワール国内でも、不安定な西部地域にあるグナカンゾー村で実施された元子どもの兵士の再統合プログラムは、成功例として知られています。リベリアとの国境近くに位置するこの地域は、もう10年以上、不安定な状況下に置かれています。2002年11月、反政府組織がこの村を襲い、多くの住民を殺害し、傷つけ、あるいはレイプし、1,000人以上もの子どもたちが誘拐されました。子どもたちは組織の司令官により強制的に徴募され、リベリア国境での戦闘に駆り出されたのです。

2004年後半、反政府組織間の争いのさなか、子どもの兵士たちは、何とかリベリアから逃げ出すことができました。ユニセフは、地元のNGO「PAHO」とともに、720人の子どもたちを、グナカンゾーへと送り還しました。今日、カウンセリングや技術訓練、定期的なフォローアップ訪問を通じて、彼らはコミュニティに戻され、社会復帰を果たしているのです。

しかし、新たに起きた民族間の紛争と、西部地域で発生した武装青年たちによる国連平和維持軍への襲撃のせいで、多くの人道支援団体が国外へ避難したため、せっかくコミュニティに戻った子どもたちが再び徴募の危機に晒されています。

リゴベール(17歳)は、ここに戻るまで、2年の間、反政府組織に属していたと言います。2005年9月、若い男たちが村にやってきて、金を見せながら子どもたちに自分たちの組織に加わるよう誘ってきたときには、きっぱりと断った、と言います。

『銃を捨てろ』と言いたいね。銃を持って、同じ仲間と戦うのはよくないことだ。だから銃を捨てろ、と」

2005年7月、国連安全保障理事会は、武力紛争に巻き込まれている国々(コートジボワールを含む)において、子どもたちの状況を監視し、加害者に対して制裁を課す安保理決議1612を採択しました。ユニセフは、コートジボワールで活動する他の国連諸機関とともに、この安保理決議に基づき、実行可能な監視・報告体制(MRM)を整備しました。

「基本的に私たちは安全保障理事会に対し、次のような事柄を定期的に報告する義務があります：子どもたちは今なお徴募されているのかいないのか、利用されているのかいないのか、また、どの武装勢力によって利用されているのか。これらを報告することになっているのです」マヌエル・フォンテーンは言います。「その報告の結果、安全保障理事会は武装勢力のリーダーに対して行動を起こすことができる、制裁を加えることができるようになるのです。たとえば、彼らの海外渡航を禁じたり、また将来の政府内で彼らが要職につくのを防ぐことができます。この決議は子どもの徴募をやめさせる恰好の機会となるのです」

ユニセフはまた、安保理決議1612を遵守するよう、精力的に、各武装勢力と対話を続けています。しかし、この政情不安が続き、長く続く平和が取り戻せない限り、子どもたちはこれからも徴募の危機に晒されつづけるのです。

お知らせ

子どもの兵士をテーマにした映画『イノセント・ボイス～12歳の戦争～』(日本ユニセフ協会後援)が、全国各地の映画館で順次上映の予定です。上映される映画館の情報、映画についての詳細は、『イノセント・ボイス』のホームページをご覧ください。

かつどう ほうこく

- ◎ 12月1日(木) ユニセフグッズ出前頒布 (小城市役所牛津庁舎)
- ◎ 12月10日(土) ふれあい人権フェスタ 2005にて
パネル展「子どもの権利条約」ビデオ上映 活動報告 (千代田町はんぎーホール)
- ◎ 12月13日(火) 鍋島中学校1年6組募金贈呈式 (佐賀県支部事務所)
- ◎ 12月17日(土) 日本ユニセフ協会佐賀県支部第4回理事会 (佐賀市あけぼの)
- ◎ 12月18日(日) 第27回ユニセフ ハンド・イン・ハンド 佐賀地区
(佐賀玉屋デパート前 ジャスコ佐賀大和店 イオンスーパーセンター 上峰サティ)
- ◎ 12月23日(金) 第27回ユニセフ ハンド・イン・ハンド 鹿島地区(ピオ モリナガ)
- ◎ 1月7日(土) 「地球共育の会・ふくおか」主催ワークショップ研修会参加(福岡市人権啓発センター)
- ◎ 1月10日(火) 柳川市立大和小学校募金贈呈式 (柳川市大和小学校)

- ◎ 2月4日(土) ユニセフのつどい (佐賀市アバンセ)
- ① 講演「パキスタンの子どもたちと初等教育」
講師：JICA デスク佐賀 小野康子さん
- ② ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」
ファシリテータ：日本ユニセフ協会佐賀県支部 吉原真紀子
- ◎ 2月10日(金) ユニセフ出前授業 江北町立江北中学校1年生(96名)
総合学習「紛争と子どもたち、そしてユニセフ」 (杵島郡江北町江北中学校)
- ◎ 2月21日(火) ユニセフ出前講座 柳川市ヒューマンライツなかやま
ワークショップ「ユニセフと子どもの権利条約」 (柳川市社会教育集会所)
- ◎ 3月4日(土) 佐賀市立北部児童センター募金贈呈式 (佐賀市北部児童センター)
- ◎ 3月5日(日) エコマーケットにてミニバザー (佐賀市エコプラザ)
- ◎ 3月6日(月) 大木町立大溝小学校募金贈呈式 (三潞郡大木町大溝小学校)
- ◎ 3月14日(火) JA佐賀県女性組織協議会募金贈呈式 (佐賀市佐賀新聞社)
- ◎ 3月14日(火) ユニセフ出前授業 大川市立大野島小学校6年生(23名)
総合学習「わたしと世界の12歳」 (大川市大野島小学校)
- ◎ 3月14日(火) 佐賀県支部通信 NO. 8 発行

ご支援・ご協力ありがとうございました

三又小学校様 さが市民活動サポートセンター様 東洋館様 北方中学校3年生様 (株)筑紫建設様
 矢山クリニック様 えんびつ館様 アルタ開成店様 (株)村岡屋様 呼子中学校生徒会様
 佐賀空港ターミナル(株)様 唐津市立第一中学校様 (株)北島様 東与賀町役場様 佐賀市文化会館様
 日本バプテスト連盟佐賀キリスト教会様 サンシャレー様 (株)不二家様 クレセント様
 立花カイセイ薬局様 サウンドスピリッツ様 吉原内科様 栗原内科消化器科医院様 川崎自工様
 佐賀ギター音楽院様 モンテカルロ太陽様 エクセルウエンズ様 みねまつ歯科様 いっせい麺処様
 山小屋ラーメン様 内田整体院様 TSUTAYA 鍋島店様 富士南小学校様 ホテルニューオータニ様
 春日保育園様 (株)ホンダパーツ西南様 お元気村様 佐賀幼稚園様 佐賀幼稚園母の会 OB 様
 鍋島中学校1年生様 最所・安田法律事務所様 アルタ高木瀬店様 ようどう館佐賀校/大和校様
 唐津ルーテル幼稚園父母と教師の会ルーテルデー委員会様 嬉野中学校様 大和小学校様 三瀬そば様
 風羅坊様 誕生院保育園様 大溝小学校様 佐賀市北部児童センター様 高木瀬小学校6年2組様
JA 佐賀県女性組織協議会様
 巨勢小学校4年1組様 ワークステーション様 佐賀市国際交流協会様 雇用能力開発機構佐賀センター様
 野中商事様 勤労者トラベルセンター様 英進館駅前校様 循誘公民館様 LOVE/FM様
 佐賀リハビリテーション病院様 三潞大川薬剤師会様 佐賀大学看護学部様 ほほえみ館様
 三又中学校様 大川東中学校様 木室小学校様 自由ヶ丘高校様 川副町役場様 伊万里中学校様
 北方中学校2年生様 日本ハウズィング様 (2005年11月26日～2006年3月14日)

* 様々な形でのご支援ご協力を感謝申し上げます。個人のみなさまからもたくさんのご支援を頂いていますが、平成17年4月1日からの「個人情報保護に関する法律」施行に伴い、お名前の掲載は控させていただきます。

日本ユニセフ協会会員募集



©UNICEF Pakistan/Zaidi

日本ユニセフ協会佐賀県支部では会員を募集しています。(県外の方もOKです) 会員として、世界の子どもたちのために、応援していただきませんか？

Q. 会員ってなあに？

A. 世界の子どもたちを支援する日本ユニセフ協会を、会費によってご支援いただく方法です。会員登録をしていただき、ユニセフの機関紙やさまざまなユニセフの資料を通じて、世界の子どもたちのおかれている状況について理解を深めていただくことができます。また、佐賀県支部の活動情報を入手し、会員としてさまざまなイベントにご参加いただけます。

Q. 会費の種類は？

A. 3種類あります。

- ① 一般会員…個人ならどなたでも入会できます。年会費は5,000円です。
- ② 学生会員…18歳以上の学生の方が対象です。年会費は2,000円です。
*18歳未満の方は「ユニセフ子どもネット」にご参加ください。
- ③ 団体会員…団体、法人、企業などが対象です。年会費は100,000円です。

Q. 会員の期間は？

A. ①の一般会員と②の学生会員は、入会月から1年間です。
③の団体会員は、毎年4月から翌年3月までの1年間です。

Q. 問合せ先は？

A. お問合せは下記事務所までお願いします。



(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部 (佐賀市水ヶ江4-2-2)
電話&ファックス 0952-28-2077
e-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

「ユニセフ・カードとギフト春・夏号2006」のカタログをご希望の方は事務所までご連絡ください。「子どもとエイズ」世界キャンペーン開始にあたり、支援グッズとして**ロゴ入りリストバンド(500円)**もできました。